

■殺虫剤：農業用

ネオニコチノイド系

アドマイヤー® 顆粒水和剤

登録番号：20342
 毒性：劇物
 消防法：—
 有効年限：4年

成分 イミダクロプリド……50.0%
 物理的・化学的性状 褐色水和性細粒

包装：100 g × 20 500 g × 4

◆特長

- 浸透移行性に優れており、アブラムシ類、アザミウマ類などに対して低用量で優れた防除効果を発揮します。
- 顆粒水和剤なので、粉立ちが少なく溶けやすいため、使い易い薬剤です。

◆適用と使用方法

| 作物名 | 適用病害虫名 | 希釈 倍数 | 使用液量 | 使用時期 | 本剤の 使用回数 | 使用 方法 | イミダクロプリドを 含む農業の総使用回数 |
|------------|---|--------------------|--|----------------|-------------|----------|---|
| 稲 (箱育苗) | ウンカ類 ツマグロヨコバイ | 500倍 | 育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り0.5ℓ | 移植2日前 ～移植当日 | 1回 | 灌注 | 3回以内 (移植時までの処理 は1回以内、本田で の散布は2回以内) |
| | イネミズゾウムシ イネドロオウムシ | 500～ 1,000倍 | | | | | |
| 小麦 | アブラムシ類 | 15,000倍 | 60～150ℓ / 10a | | 2回 以内 | 散布 | 3回以内 (種子粉衣は1回 以内、散布は2回 以内) |
| とうもろこし | | 10,000～ 15,000倍 | 100～300ℓ / 10a | | | | 3回以内 (種子粉衣は1回 以内、は種後は 2回以内) |
| | | 160倍 80倍 | 3.2ℓ /10a 1.6ℓ /10a | | | | |
| かんきつ | アブラムシ類 ミカンハモグリガ ケシキスイ類 ゴマダラカミキリ成虫 コアオハナムグリ コナカイガラムシ類 アカマルカイガラムシ コナジラミ類 | 10,000倍 | 200～700ℓ / 10a | 収穫14日前 まで | 3回 以内 | 散布 | 3回以内 |
| | ミカンキジラミ | 5,000倍 | | | | | |
| | アザミウマ類 | 5,000～ | | | | | |
| | カメムシ類 | 10,000倍 | | | | | |
| | | | | | | | |
| りんご | カメムシ類 リンゴワタムシ | 5,000倍 | | 収穫3日前 まで | 2回 以内 | | 2回以内 |
| | アブラムシ類 | 10,000～ 15,000倍 | | | | | |
| | キンモンホソガ ギンモンハモグリガ | 10,000倍 | | | | | |

| 作物名 | 適用病害虫名 | 希釈 倍数 | 使用液量 | 使用時期 | 本剤の 使用回数 | 使用 方法 | イミダクロプリドを 含む農薬の総使用回数 | |
|-------------------|------------------|-------------------|--------------------|---|---|---|-------------------------|--------|
| う め す も も | アブラムシ類 | 10,000倍 | 200~700ℓ / 10 a | 収穫21日前 まで | 2回 以内 | 散布 | 2回以内 | |
| | コナカイガラムシ類 | 5,000倍 | | 収穫3日前 まで | | | | |
| な し | アブラムシ類 | 5,000~ 10,000倍 | | | | | | アブラムシ類 |
| | カメムシ類 | | | | | | | |
| も も | アブラムシ類 | 10,000倍 | | モモハモグリガ カメムシ類 | | | | |
| | モモハモグリガ カメムシ類 | | | | | | | |
| ネ ク タ リ ン | アブラムシ類 | 5,000~ 10,000倍 | | モモハモグリガ カメムシ類 | 収穫14日前 まで | | | |
| | モモハモグリガ カメムシ類 | 10,000倍 | | | | | | |
| ぶ ど う | コナカイガラムシ類 | 5,000倍 | | フタテンヒメヨコバイ | 収穫21日前 まで | | | |
| | フタテンヒメヨコバイ | 10,000倍 | | | | | | |
| | アザミウマ類 | 5,000~ 10,000倍 | | | | | | |
| か き | コナカイガラムシ類 | 5,000倍 | アザミウマ類 | 収穫7日前 まで | 3回 以内 | 3回以内 | | |
| | アザミウマ類 | 10,000倍 | | | | | | |
| | カメムシ類 | 5,000~ 10,000倍 | | | | | | |
| マ ン ゴ ー | アザミウマ類 | 10,000倍 | アザミウマ類 | 収穫14日前 まで | 2回以内 | | | |
| パッションフルーツ | アザミウマ類 | | | 収穫7日前 まで | | | | |
| ア テ モ ヤ | コナカイガラムシ類 | | | | | | | |
| な す | アブラムシ類 | 5,000~ 10,000倍 | コナジラミ類 | アザミウマ類 | 2回 以内 | 3回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の土壌 混和は合計1回以内、 散布及び常温煙霧は 合計2回以内) | | |
| | コナジラミ類 | | | | | | | |
| ピ ー マ ン とうがらし類 | アブラムシ類 | 5,000~ 10,000倍 | アザミウマ類 | 収穫前日 まで | 3回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の土壌 混和は合計1回以内、 散布は2回以内) | | | |
| | アザミウマ類 | | | | | | | |
| ト マ ト ミニトマト | アブラムシ類 | 10,000倍 | コナジラミ類 | アザミウマ類 | 3回 以内 | 4回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の土壌 混和は合計1回以内、 散布及び常温煙霧は 合計3回以内) | | |
| | コナジラミ類 | | | | | | | |
| き ゆ う り | アブラムシ類 | 10,000倍 | コナジラミ類 | アザミウマ類 | 3回 以内 | 4回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の土壌 混和は合計1回以内、 散布及び常温煙霧は 合計3回以内) | | |
| | コナジラミ類 | | | | | | | |
| アザミウマ類 | 10,000倍 | アザミウマ類 | 3回以内 | 4回以内 (育苗期の株元散布 及び定植時の土壌 混和は合計1回以内、 散布及び常温煙霧は 合計3回以内) | | | | |

| 作物名 | 適用病害虫名 | 希釈 倍数 | 使用液量 | 使用時期 | 本剤の 使用回数 | 使用 方法 | イミダクロプリドを 含む農薬の総使用回数 | | | | | | | | | |
|-----------------------------|----------------------------|-------------------|--------------------|-------------|-------------|-------------------|---|------|-------------|----------|----|---|--------------------|--------------|-------------------|--|
| す い か | アブラムシ類 アザミウマ類 | 5,000～ 10,000倍 | 100～300ℓ / 10 a | 収穫3日前 まで | 3回 以内 | 散布 | 4回以内 (定植時の土壌混和 は1回以内、散布 は3回以内) | | | | | | | | | |
| ズッキーニ | アザミウマ類 アブラムシ類 コナジラミ類 | 10,000倍 | | 収穫前日 まで | | | | | | | | | | | | |
| メ ロ ン | コナジラミ類 | 5,000～ 10,000倍 | | 収穫3日前 まで | | | | | | | | | | | | |
| | アブラムシ類 アザミウマ類 | | | | | | | | | | | | | | | |
| う り 類 (漬物用) | アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類 | 10,000倍 | | 収穫7日前 まで | 2回 以内 | | 散布 | 3回以内 | | | | | | | | |
| に が う り | アザミウマ類 | | | 収穫前日 まで | | | | | | | | | | | | |
| か ぼ ち ゃ | アブラムシ類 | | | 10,000倍 | | | | | 収穫7日前 まで | 2回 以内 | 散布 | 2回以内 (定植時の土壌混和 は1回以内、散布 は2回以内) | | | | |
| な ば な | | | | | | | | | | | | | | | | |
| は く さ い | | | | | | | | | | | | | | | | |
| キャベツ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| か ぶ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ば れ い し ょ | | | オオニジュウヤホシテントウ | | | 2,500倍 | | | | | | | 25ℓ /10 a | 収穫14日前 まで | 無人ヘリコプ ターによる散布 | 3回以内 (植付時の土壌混和 は1回以内、植付 後は2回以内) |
| | | | | | | 5,000～ 15,000倍 | | | | | | | 100～300ℓ / 10 a | | | |
| | 160倍 | | | 3.2ℓ /10 a | | | | | | | | | | | | |
| | 80倍 | 1.6ℓ /10 a | | | | | | | | | | | | | | |
| さ と い も さ と い も (葉 柄) | アブラムシ類 | 10,000倍 | 100～300ℓ / 10 a | 収穫前日 まで | 散布 | | | | | | | | | | | |

| 作物名 | 適用病害虫名 | 希釈 倍数 | 使用液量 | 使用時期 | 本剤の 使用回数 | 使用 方法 | イミダクロプリドを 含む農薬の総使用回数 |
|---------------|----------------------------------|-------------------|---|---|-------------|--|---|
| かんしょ | アブラムシ類 | 10,000倍 | 100~300ℓ / 10a | 収穫7日前 まで | 2回 以内 | 散布 | 3回以内 (植付前の土壌混和 は1回以内、散布 は2回以内) |
| やまのいも | | | | 収穫14日前 まで | | | 3回以内 (植付時の土壌混和 は1回以内、散布 は2回以内) |
| てんさい | カメノコハムシ アブラムシ類 テンサイモグリハナバエ | 300倍 | ペーパーポット 1冊当り1ℓ (3ℓ/m ²) | 定植時 | 1回 | 灌注 | 3回以内 (種子への処理又は 灌注は1回以内、 散布は2回以内) |
| | アブラムシ類 | 300~ 500倍 | | | | | |
| みょうが (花 穂) | カイガラムシ類 | 10,000倍 | 100~300ℓ / 10a | 収穫前日 まで | 2回 以内 | 散布、但し 花穂の発生 期にはマル チフィルム 被覆により 散布液が 直接花穂に 飛散しない 状態で使用 する | 2回以内 |
| みょうが (茎 葉) | | | | みょうが(花穂) の収穫前日まで 但し、花穂を収 穫しない場合 あつては開花期 終了まで | | | |
| ね ぎ | アザミウマ類 | 5,000倍 | 100~300ℓ / 10a | 収穫14日前 まで | 2回 以内 | 散布 | 3回以内 (定植時までの処理 は1回以内、散布 は2回以内) |
| たまねぎ | | 5,000~ 10,000倍 | | | | | |
| すいぜんじな | アブラムシ類 | 10,000倍 | 100~300ℓ / 10a | 収穫7日前 まで | 3回 以内 | 散布 | 2回以内 |
| にんじん | | | | 収穫3日前 まで | | | |
| みしまさいこ | | | | 収穫30日前 まで | | | |

| 作物名 | 適用病害虫名 | 希釈 倍数 | 使用液量 | 使用時期 | 本剤の 使用回数 | 使用 方法 | イミダクロプリドを 含む農薬の総使用回数 |
|-------------------------------------|---------------------------------------|---|--------------------|---|-------------|----------|--|
| 豆 類 (種 実) | アブラムシ類 | 10,000倍 | 80～300ℓ / 10 a | 収穫30日前 まで | 2回 以内 | 散布 | 3回以内 (は種時の土壌混和 は1回以内、散布 は2回以内) |
| 豆 類 (未成熟、ただし、 未成熟そらまめを 除く) | | | | 収穫前日 まで | | | 3回以内 (定植時及びは種時 の土壌混和は合計 1回以内、散布は 2回以内) |
| 未成熟そらまめ | | | | 収穫14日前 まで | | | 3回以内 (定植時及びは種 時の土壌混和は 合計1回以内) |
| レ タ ス | | | | 収穫3日前 まで | | | 3回以内 (育苗期の処理は 1回以内、散布 は2回以内) |
| ほうれんそう | | | | 収穫前日 まで | | | 3回以内 (は種時の土壌混和 は1回以内、散布 は2回以内) |
| み つ ば | | 収穫7日前 まで ただし、伏せ 込み栽培は 伏せ込み前 まで | 2回以内 | | | | |
| 食 用 ゆ り | | 5,000倍 | 収穫前日 まで | 3回 以内 | 3回以内 | | |
| こんにやく | 10,000倍 | 収穫21日前 まで | 2回 以内 | 3回以内 (培土時の土壌混和 は1回以内、散布 は2回以内) | | | |
| アスパラガス | アザミウマ類 | 5,000倍 | | 収穫前日 まで | | 2回以内 | |
| 茶 | チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ チャノホソガ | 5,000～ 10,000倍 | 200～400ℓ / 10 a | 摘採7日前 まで | 1回 | | 1回 |
| | ツマグロアオカスミカメ | | | | | | |
| き く | アザミウマ類 | 5,000倍 | 100～300ℓ / 10 a | 発生初期 | 5回 以内 | 5回以内 | |
| げ っ き つ | ミカンキジラミ | | 200～700ℓ / 10 a | | 4回 以内 | 4回以内 | |

| 作物名 | 適用 病害虫名 | 使用量 | 使用時期 | 本剤の 使用回数 | 使用方法 | イミダクロプリドを 含む農薬の総使用回数 |
|--------|------------|--------------------------------------|------|-------------|----------------------|--|
| 乾田直播水稲 | ウンカ類 | 種もみ 4～8kg当り 30～40g (40g/10aまで) | は種前 | 1回 | 種子塗沫 (未催芽期) | 3回以内 (種もみへの処理は 1回以内、本田での 散布は2回以内) |
| 湛水直播水稲 | | 種もみ 3kg当り 30～40g (40g/10aまで) | | | 過酸化カルシウム 剤との同時湿粉衣 | |

ラベルをよく読み、ラベルの記載以外には使用しないで下さい。

◆注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。種もみに処理する場合には、薬量を種もみの量に合わせて調製すること。
- (2) 湛水直播水稲に使用する場合は、次の項目を守ること。
 - ① 本剤を直接もみに処理すると薬害を生じる恐れがあるので注意すること。
 - ② 過酸化カルシウム剤の3分の1程度をもみに粉衣した後に、過酸化カルシウム剤と本剤を混合したものを種子に湿粉衣すること。また、過酸化カルシウム剤の使用上の注意事項を守ること。
- (3) 稲（箱育苗）に使用する場合、軟弱徒長苗、おれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- (4) 本剤を希釈倍数2500倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- (5) 稲（箱育苗）に使用する場合、誤って過剰に使用したり、本剤使用后3日以上移植せずに育苗箱中におくと葉枯れなどの薬害を生じることもあるので、所定の使用量、使用時期、使用方法を厳守すること。
- (6) 稲（箱育苗）に使用する場合、本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきは丁寧に行かない、移植後田面が露出しないように注意すること。
- (7) 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は次の注意事項を守ること。
 - 1) ミツバチに対して影響があるので、関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
 - 2) 散布は散布機種種の散布基準に従って実施すること。
 - 3) 散布に当っては散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
 - 4) 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
 - 5) 散布薬液の飛散によって動植物の被害や自動車の塗装等に被害を与えるおそれがあるなど、各分野に影響があるので、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
 - 6) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散・流入しない様に十分注意すること。
 - 7) 散布終了後は次の項目を守ること。
 - ① 使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄すること。
 - ② 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- (8) ネクトリン及びすももでは品種により、葉に薬害を生じる場合があるので注意すること。
- (9) 蚕に対して長期間毒性があるので、絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (10) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - 1) ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。

- 2) 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
- 3) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (11) マルハナバチに影響があるので、本剤使用後は他の方法（人工授粉、植物ホルモンなど）で授粉作業をすること。
- (12) 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節すること。
- (13) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (14) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (15) 取扱及び保管上の注意、漏出時の措置、廃棄上の注意、輸送上の注意、火災時の措置については、11ページ、12ページを参照すること。

◆安全使用上の注意

- (1) 医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。
誤って飲み込んだ場合には吐きださせ、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 使用の際は防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- (4) 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

◆魚毒性

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後の水管管理に注意すること。
- (3) 空中散布（無人ヘリコプターによる散布）で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (4) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使い切ることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。